

LPガスCP速報(2024年4月積)

1. 4月積みサウジアラムコLPガスCP

プロパン **615** ドル (前月比-15 ドル)

ブタン **620** ドル (前月比-20 ドル)

① LPガススポット市況等

LPガス市場をみると、中東市場は、冬季需要期が終了、供給も潤沢で、需給は緩和、PDHの新規需要が下支えする形。ナフサ高で代替ブタンの石化需要が期待されたが、伸び悩み。LPガス市況は、原油市況の上昇に下支えられたが、需給緩和で軟化、極東CFR市況は、第4週でプロパン、ブタン620 ドル どころ、第3週から10 ドル の下落。

米国市場は、大幅に落ち込んでいたプロパン供給が増加に転じ、製油所稼働率も回復し、在庫減少に歯止めが掛った。在庫水準は前年を下回っているものの、5年平均の中央(グラフ②参照)。需要は、暖房需要期が過ぎ減少したが、輸出は昨年12月に過去最高の記録を更新(グラフ③参照)、輸出は高水準で推移している。モンベルビュープロパンスポット価格は軟化、中旬には400 ドル を割り込み、月間平均で前月比55 ドル 反落の415 $\text{ドル}/\text{トン}$ どころ(グラフ①参照)となった。一方、高騰していたブタン価格も軟化、プロパンとの混載で米国产ブタンも極東への流入が増加している。

フレート市況は、月間平均で前月比約10 ドル 上昇。1月以降乱高下したスポット運賃は今月第1週には60 ドル に軟化、第3週には80 ドル まで上昇したが、需要ピークを過ぎ、船舶需給が緩和し再び軟化した。パナマ運河の通航隻数は回復傾向も制限された昨年11月と変わらず、ガソリン湖の水位は低く今後の見通しは不透明。極東CFRとMBの価格差が200 ドル に拡大、米国产の極東への流入はトレーダーには妙味。なお、米国～日本のスポット運賃も第3週に140 ドル まで上昇したが、第4週には120 ドル に戻している。

ナフサ市況は続伸、月間平均は前月比32 ドル 続騰の713 ドル どころ。原油市況の上昇と供給減で中、下旬には730 ドル まで上昇し、ナフサ高により代替の石化ブタンに割安感がある。

バンカーオイルをみると、シンガポールIFO380は原油市況に連れ高、月間平均で前月比33 ドル 反騰の480 ドル どころ、LSMGO(低硫黄マリンガスオイル)は反落、前月比25 ドル 下落の788 ドル どころ、ガスオイルとC重油との格差は308 ドル に縮小した。

4月CPは前年同月比プロパン60 ドル 、ブタン75 ドル のそれぞれ上昇。原油(アラビアン・ライト)熱量等価換算(下記参照)では、前月に比べプロパン、ブタンともに6ポイント下落、前年同月比ではプロパン3、ブタン6ポイントそれぞれ高い。

	第1週	第2週	第3週	第4週	平均
フレート(中東-日本)	60	60	80	60	65
CP先物指標:P	590	605	610	615	605
CP先物指標:B	590	610	610	620	608

② 原油市況等

3月の原油市況は70~80 ドル のレンジ相場を上抜け、19日に昨年10月以来の高値を更新した。中東情勢の緊迫化に加え、ウクライナのロシア製油所へのドローン攻撃によりロシアの製油所稼働率が低下、地政学リスクが原油市況を下支えする形となった。供給面ではOPECプラスの減産延長観測と、非OPECプラス(米、カナダ、ブラジル、ガイアナ等)の増産が綱引き、需要面では、中国の需要回復不透明感はあるものの米国経済は好調、株価は連日最高値を更新し、金融市場はリスクオンとなった。一方、原油先物市場は、50日移動平均が100日移動平均を上抜ける「ゴールデンクロス」のチャートを形成、WTIプロンプトスプレッド(期近2限月)も逆ざやが拡大、需給逼迫感が示されている。

○3月積みアラビアン・ライト(3月1~28日までの想定)は85.64 ドル (前月比+3.27 ドル)

熱量等価AL100% プロパン702.16 $\text{ドル}/\text{トン}$ ブタン692.53 $\text{ドル}/\text{トン}$

AL比 プロパン87.59% ブタン89.53%

*上記ALはE I N推計、確定値は後日Webサイトでご確認ください。

2. 2024年4月LPガス仕切（CP・MBコスト変動分）への影響

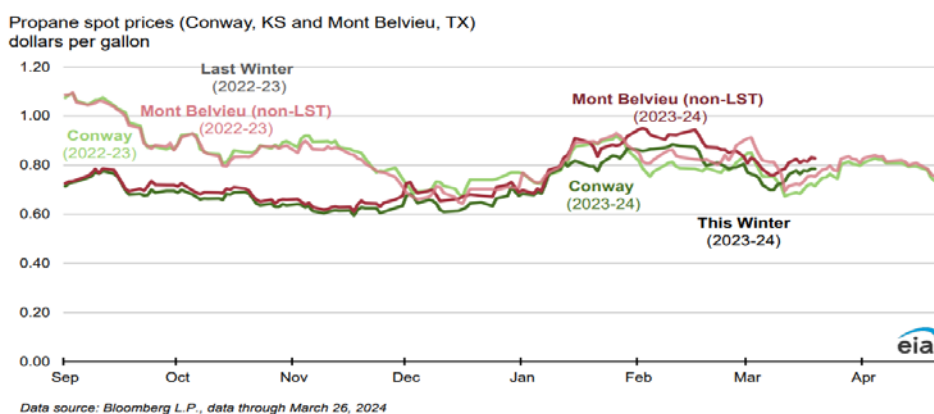
適用為替	TTS	P円建CFR	B円建CFR	P前月比	B前月比
3月月間	150.67	99,200	104,400	-2,500	-900

* TTS平均等について、各社の適用為替レートが昨年4月仕切改定から月間平均に統一された。

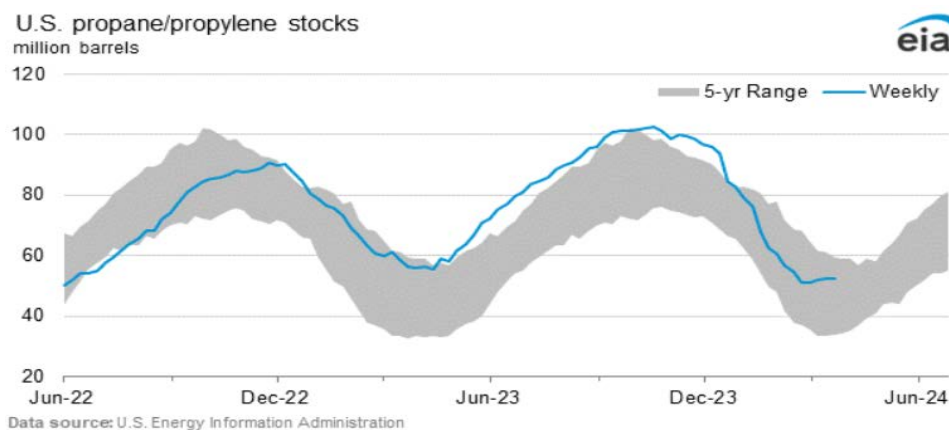
上記は3月1～31日までのTTS平均。CPは前月・当月50%案分。プロパンのMB合成比率はCP70%、MB30%で算定。CFRコストは中東・北米フレートを含むCFRコストを表示。CFRコストには北米の基地経費等も含まれるが各社で異なる。

なお、上記MBは3月27日までの価格を基にEINで試算（417ドル/トン）したもので、メーカー各社の最終確定値とは異なる。また、各社の仕切はフレート分、バンカーサーチャージ等の改定やフォーミュラ見直しもなされるため、仕切等の詳細はWebサイトを参照。

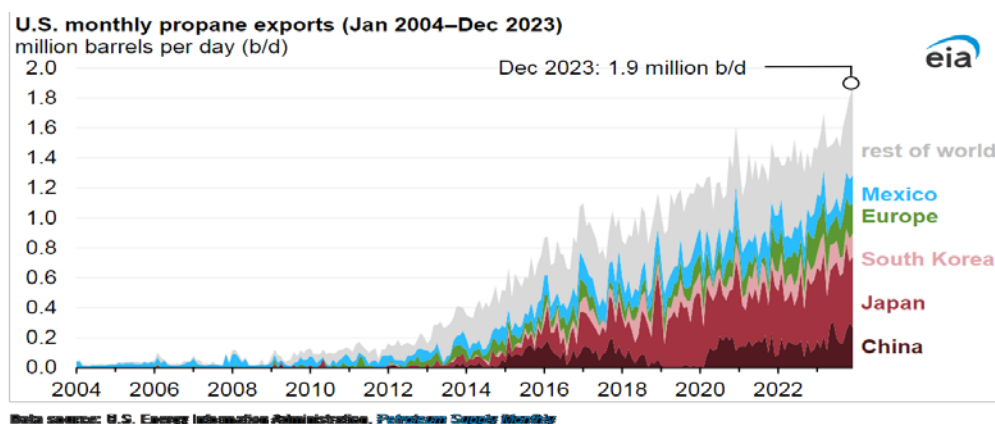
① 米国プロパンスポット価格推移



② 全米プロパン在庫推移



③ 米プロパン輸出量推移



出典：EIA